

留学先：フィンドレー大学

氏名：岸本有実子（留学時：教育地域科学部学校教育課程 4年）

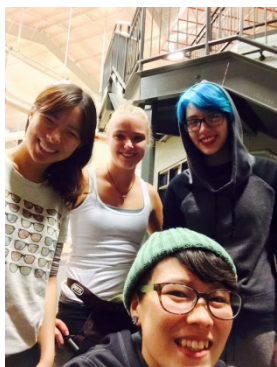
留学期間：2015年8月～2016年2月（7ヶ月）



交換留学を希望した動機	大学での講義や地域の人々との交流、現地での生活の中で意見交換、文化交流を英語で行なったり福井大学で学んだ知識を活かしたりし、それらを通して英語力を高めたいと思ったため。また、「人種のるつぼ」とも言われるアメリカでの生活を通して様々な国からの留学生と出会い、自らの視野を世界に広げたいと考えたため。さらにアメリカの各地を見て回り、アメリカの歴史・文化を直に感じ、学びたいと思ったため。
留学先を決めた経緯	これまでフィンドレー大学に留学した経験のある先輩方からの話を聞き、大学の特色・受講可能な授業や大学周辺でのボランティア活動などが自身に会っていると考えた。また、留学生が多いと聞き、交流の機会も多いと聞いた。これらの事実を考慮して留学先をフィンドレー大学に決定した。
留学先の大学について （特徴や紹介したい特色）	日本語学科があり日本人と交流したいアメリカ人学生がいるため、お互いに学び合うことができる。留学生が多く、彼らとともにボランティア活動をしたり交流したりするイベントが多い。また、コンピュータラボや共用学習スペースがいつでも利用でき、学習環境が充実している。 地域・大学構内におけるボランティア活動で子どもたちと関わるができる。それらを通して文化交流を行なう機会が非常に多い。
留学先で履修した科目や 学習等	リーディング、ライティングは必修科目。それ以外に私は芸術（ドローイング、油絵）やスペイン語、心理学や文化交流の授業を受講した。授業を選択する際、福井大学では受講できない授業、いわば自分にとって新しい挑戦をすることを心がけた。
あなたの留学先へ交換留学を 考える福井大学生への メッセージ	学ぶ環境は非常に整っており、自分が挑戦したいことは誰もがサポートしてくれる理想的な大学だと思う。大学の施設やイベントを大いに利用し、多くの人々と交流してほしい。また、留学の目標を達成するためにできることを精一杯することが大切なので、一人でできないと思ったら時には周りの協力を得ることも重要である。体調を崩さず無理のない程度に、楽しく様々なことを吸収して行ってほしい。実りある留学になるよう頑張ってください。

【交換留学の成果について】

アメリカへ長期留学をすることは福井大学へ入学した当時から抱いていた希望で、今回その希望を叶えることができとても嬉しく思う。また、上記の動機を踏まえて設定した3つの目標（英語力を高めること、福井大学でのこれまでの学びを活かすこと、アメリカ各地を旅行して現地の人々と交流しながら視野を広げること）を概ね達成できたと思う。英語力については、主に大学での講義を通して4技能全てにおいて向上したと思う。特にスピーキング、リスニングは講義を受けるにあたって必須であったため、始めは苦労したが友達の助けもあって徐々に慣れていった。また、現地の生活の中で発生した様々な問題を解決するために英語を駆使していったことも英語力や生活力を高めるうえでよい経験になった。特に体調を崩した時に病状を説明したりカウンセラーを尋ねて気持ちの説明をしたりするのに苦労したが、そのおかげで英語を使った問題解決能力を身に付けることができた。また現地での生活について、シェアハウスでの生活や学生の実家に泊まりに行くことを通して現地の学生たちと生活を共にすることでアメリカ人の普段の生活における考え方や生活文化を体験することができた。それらがストレスに感じることも多かったが、日本ではできない体験であるし、今後またそのような環境に身を置くことがあるかもしれないため、よい経験になったと思う。また日本の学校では学べない俗語、略語やアメリカ英語ならではの表現なども友達に教えてもらい、アメリカ人の考え方、人間性、文化を学ぶうえで役に立った。



フィンドレー大学には、福井大学での学び、特に教育について学んできたことを活かすことができる授業や活動がいくつかあった。特に地域の子どもたちを対象にした月に一度の文化交流イベントや、小学校に赴いて子どもたちと様々な活動をするボランティア、子どもたちを対象にした日本語教室のボランティアが印象的であった。それらは、学生がコーディネーターと共に活動内容を考え実践するもので、福井大学での探求ネットワークの中で得た経験や知識が非常に役に立った。また、授業においてはリーディングやアカデミックライティングなどで、これまで学んできた知識を発揮することができた。

それらに加えて冬休みなどの長期休暇にアメリカ・カナダ各地を旅した際には、いくつかトラブルに見舞われたがそれらも無事に解決することができた。また現地の人々の家に宿泊したり現地を案内したりしてもらったのだが、その中で現地の人々だけが知っていそうな地域の事情やアメリカの良い点・悪い点を教えてもらったこともあった。外国人の暮らしに飛び込むことは日本ではできないし、またそういう経験は大学の学期中には経験しづらいことであるため、旅行に出て本当に良かったと思う。



以上が今回の留学における目標が達成できたと考えた理由と、留学中の経験の大まかな内容である。特にボランティア活動と旅をしていく中で学んだことは期待以上で、これらこそが日本を出てよかったと思える大きな要因ともいえるものであった。その反面、アメリカ人の友達をたくさん作りたかったけれどなかなかできなかったという事実もある。もちろん日本語学科の友達は交流が多かったためすぐにできたけれど、それで満足してしまった自分がいた。また、特にアジアからの留学生が非常に多いためその学生たちとよく行動していたということも理由として挙げられる。結果的に多くの友人ができ、たくさん交流ができたが、同じ授業を受けているアメリカ人に自分から進んで話しかけるべきだったと思う。また、私はアメリカの教育事情について知りたいと考えていたが、他に興味がある、または議論したい話題が多かったために後回しとなり、結局機会がなくて話せなかった。しかしそれを除いてはほぼ満足のいく交流をすることができた。



今後は、これらの経験を活かして就職活動に励み、就職後も英語コミュニケーション力が発揮できる環境を探していきたい。具体的には、外国人観光客を相手に接客やサポートができる職業に就きたい。その中で外国人にとって日本を観光したり住んだりしやすい国にしていく手助けができればと考える。また、世界的に店舗を展開する企業に入社すれば今回の留学で得た世界観を営業に活かすことができると思う。今後も意欲的に英語学習に励んだり世界情勢に目を向けたりして、留学で得た経験を忘れず自身の成長につなげていきたい。